

## 2003年暮らし向き調査結果

当センターでは、県内の消費行動を探るため南都銀行23か店の来店客を対象に、「暮らし向きアンケート調査」を実施し、その結果を取りまとめましたのでお知らせします。

### 《要 約》

#### 暮らし向き動向

1年前(2002年)と比べた現在の暮らし向きDIは34.8で、1年前(39.5)に比べ4.7ポイント上昇している。また、今後(1年間)の暮らし向きDIは32.4で現在よりも2.4ポイント良くなる予想になっている。

DIとは、アンケート結果の分散程度を指数化したもので、「良くなった」+「やや良くなった」から「悪くなった」+「やや悪くなった」を差し引きした指数をいう(以下同様)。

#### 消費支出動向

現在の消費支出DIは14.7となり、1年前に比べて0.2ポイント低下した。年代別では、40代のDIが最も高くなっており、消費支出が増える要因となったのは「教育費」で、その約8割を占めている。

1年後の消費支出DIは、マイナスに転じ34.7になるとしている。すべての年代で現在より支出を減らすと答えている。

#### 貯蓄目的

「老後の備え」、「病気や不時の災害への備え」が、昨年同様高い水準を占めている。

#### 購入予定商品

上位から「その他衣料品」22.9%、「その他家電品」19.5%、「乗用車」17.5%となった。「乗用車」は昨年の6位から上昇し、「婦人服」は1位から3ランク下がった。

#### 消費行動

「同じ商品なら少しでも安い店で買う」68.3%が最も高い比率を占めたが、その割合は4.5ポイント低下した。

#### サービス・レジャー等の支出

1年前と比べた現在の支出DIは「教養娯楽費」、「外食費」、「補助教育費」、「習い事の費用」の4項目で上昇した。

#### 買い物・レジャー等の支出

今後の買い物やレジャーの支出については、「増やす」12.2%、「減らす」41.5%、「考えていない」42.8%となった。

「減らす」を選んだ人にその理由を聞いたところ、「世帯の収入が減った」44.3%が最も多いが、昨年よりは1.9ポイント減少した。次に「特別な支出予定がある」は39.7%、ついで「老後の生活が不安」24.4%であった。

## 1. 暮らし向き動向

< 現在 >

1年前(2002年)と比べた全体の暮らし向きを見ると、暮らし向きDIは34.8ポイントとなり、平成13年・平成14年連続で低下していたDIが今回は4.7ポイント上昇し、暮らし向き感が少し良くなっている。

年代別に見ると、40代で暮らし向きDIのマイナス幅が40.8と最も大きい。次いで50代が36.1となっている。しかし、同年代の昨年のDIよりはそれぞれが10.4ポイント、と4.6ポイント上昇しており、マイナス幅は幾分少なくなっている。一方、DIのマイナス幅が一番小さいのが、昨年と同様29歳以下で17.8ポイントとなっている。

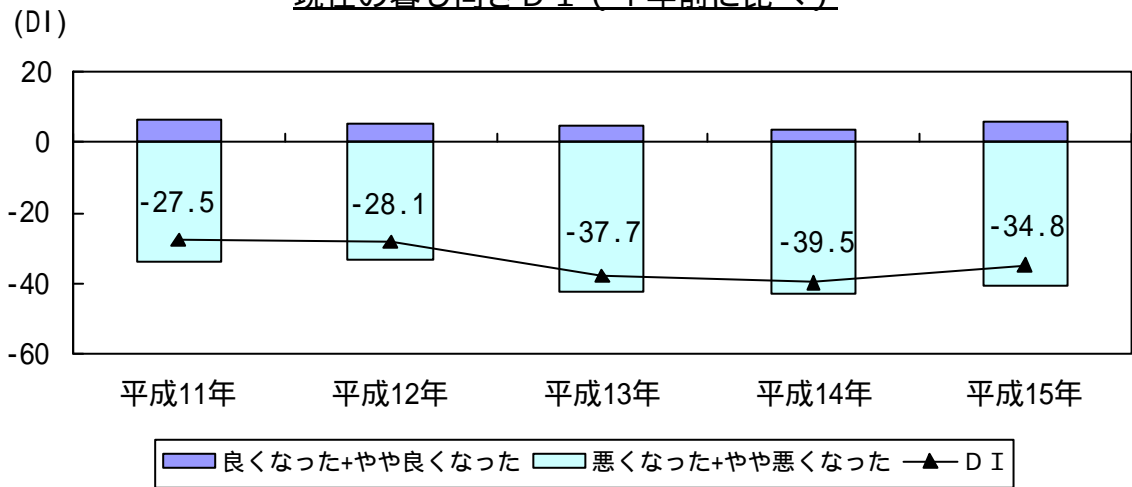
< 今後1年間(2004年) >

全体の暮らし向きDIは、32.4で現在よりも2.4ポイント良くなると予想している。平成13年・平成14年は共に、現在より悪くなる予想となっていたが、今回は上昇している。

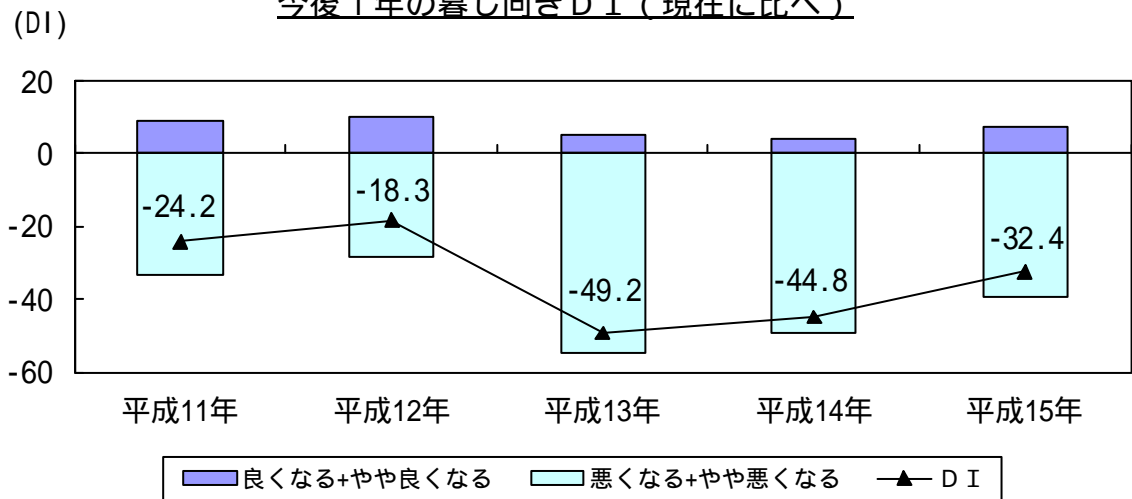
年代別に見ると、現在よりDIが悪くなると答えたのは、29歳以下(7.2ポイント悪化)と60歳以上(1.8ポイント悪化)であった。

現在の暮らし向きが最も悪くなったと答えた40代は、今後は現在より少しは良くなると考えており、DIは33.7となり7.1ポイント上昇している。

現在の暮らし向きDI(1年前に比べ)



今後1年の暮らし向きDI(現在に比べ)



## 2. 消費支出動向

< 現在 >

1年前（2002年）と比べた全体の消費支出は、「増えた」とする割合も「減った」割合も昨年とほとんど同じ水準であった。消費支出DI（以下消費DIという）も14.7ポイントと低下幅はわずかであった。

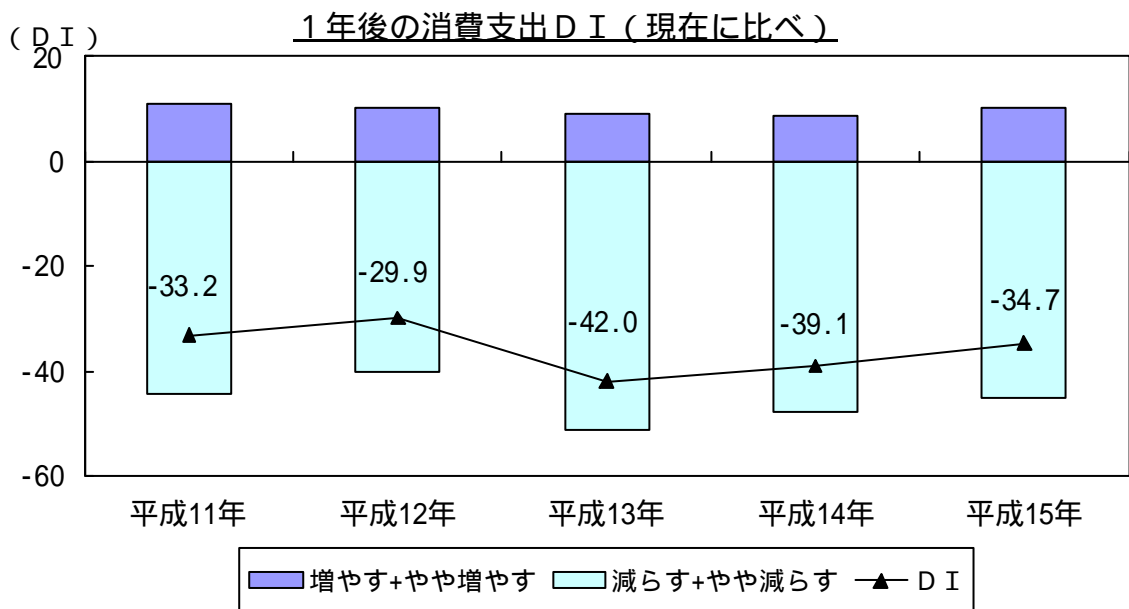
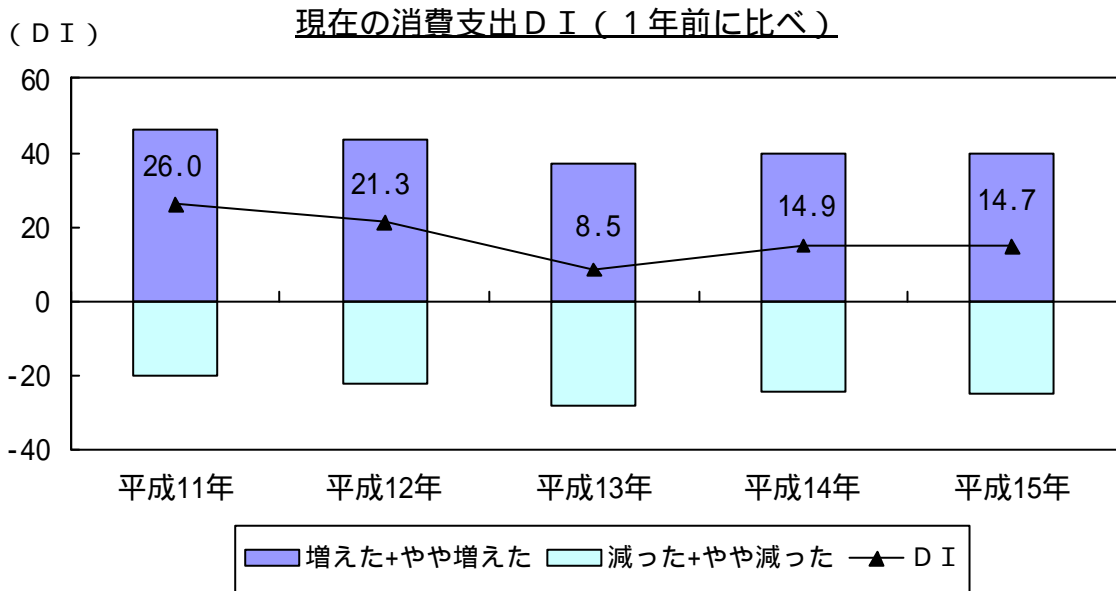
年代別の消費DIは、40代が最も高く（30.5ポイント）「増えた」とする割合が5割以上あった。最も低いのは60代以上で2.4ポイントと消費動向はここ3年ほどほとんど変化していない。

< 今後1年間（2004年） >

1年後の消費DIは、昨年の予想と同じく、

現在の消費DIより大きく低下してマイナスに転じ34.7になると答えている。しかしその水準は少しずつではあるが上昇している。

年代別で見ると、50代の消費DIが42.6と最も低い。その他のすべての年代でも現在よりも支出は控えると答えており、依然として消費者の財布のヒモは固く、支出を抑制する傾向がうかがえる。



### 3. 消費支出の増減理由等

#### (1) 消費支出の増減理由および増加費目

「増加」の理由は、「出費がかさなった」が81.3%で最も多かった。

「増加」の要因となった費目をみると(複数回答)、「教育費」が42.5%と最も多い。次は昨年4番目であった「飲食料品」(27.8%)、続いて「交際費」(25.6%)、「保健医療費」(25.3%)であった。

年代別に多い費目を比べてみると、29歳以下は「飲食料品」(50.0%)、30代では「教育費」(43.9%)に次いで「保健医療費」(31.7%)となっている。40代では「教育費」(77.1%)が突出している。50代では「教育費」(33.3%)が「交際費」(32.1%)を抜いて最も多くなった。リストラや定年後の就職のために必要な教育費も含まれているように思える。60歳以上は今回始めて「保健医療費」(52.1%)が「交際費」(35.4%)を上回り、医療費自己負担割合上昇の影響が出ている。

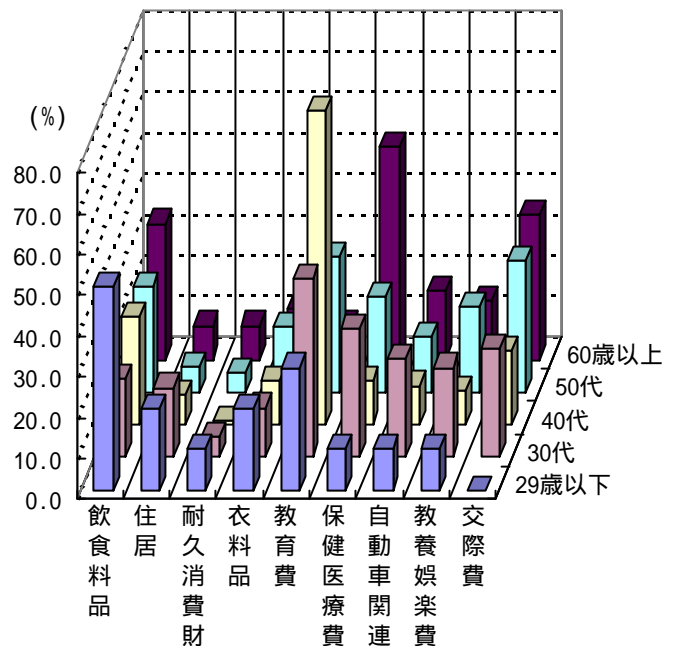
#### (2) 消費支出の減少理由および減少費目

「減少」の理由は、「節約した」、「収入が減少した」が共に44.4%と最も多くなった。「節約した」のは29歳以下が最も多く7割以上を占めた。「収入が減少した」と答えたのは40代が最も多く5割を超えた。「減少」の要因となった費目(複数回答)は昨年と同じで、「衣料品」が56.7%で最も多く、以下「教養娯楽費」(38.6%)、「飲食料品」(36.3%)が続いている。

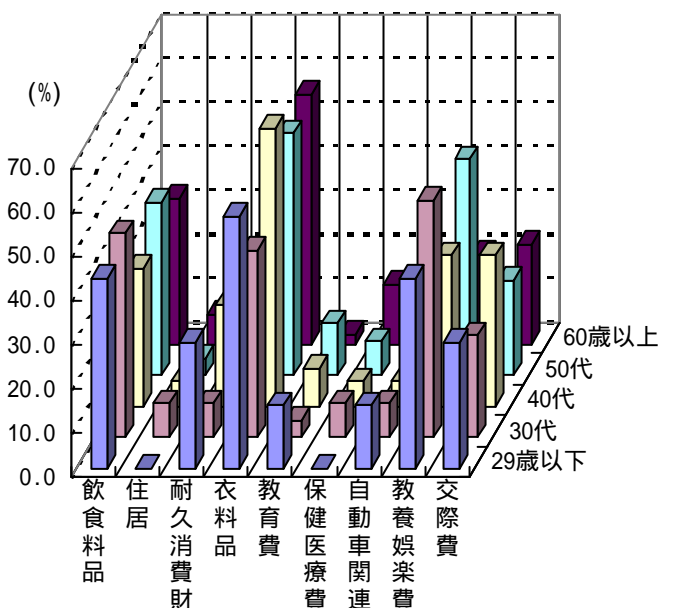
年代別にみると、29歳以下では「衣料品」(57.1%)が減少要因のトップで次は「教養娯楽費」「飲食料品」(共に42.9%)となっている。30代では「教養娯楽費」(53.8%)が最も多く、続いて「飲食料品」(46.2%)であった。40代と50代では「衣料品」の次に「教養娯楽費」を減らした割合が高か

った。60代では「衣料品」に次いで「飲食料品」を減らしていた。

**支出が増えた費目**  
(複数回答)



**支出が減少した費目**  
(複数回答)



#### 4. 貯蓄目的（複数回答）

<全体>

今後1年間の貯蓄額については「増やす」（31.1%）、「減らす」（16.4%）となり、貯蓄DIは昨年よりも3.9ポイント上昇した。

貯蓄の目的は、「老後の備え」（52.8%）が最も多くその割合も昨年より6.1ポイント増えた。なかでも60代以上では7割を超え、50代でも6割を越えた。この背景には介護保険料の引き上げや、年金の受給額が削減されるなどますます先行きの不安感が切実な問題となっていることがうかがえる。次には「病気や不時の災害への備え」（44.3%）、「教育資金」（30.5%）が続いている。

全体的に見ると、今回は「老後の備え」だけが昨年を上回り、その他の項目はすべて昨年よりも少しずつではあるが下回っている。

すべての年代で「老後の備え」は昨年より上昇しており、若い年代でも老後に対して不安を抱えていることがわかる。

<年代別>

年代別に特徴を見てみると、29歳以下では昨年4番目であった「教育資金」（30.5%）が最も多くなっている。子供の教育費もさることながら、自分の能力を高めるための教育費も含まれていると思われる。次は「病気や不時の災害の備え」（25.0%）であった。

30代、40代は例年通り「教育資金」が最も多くなっているが（63.3%、61.8%）

30代

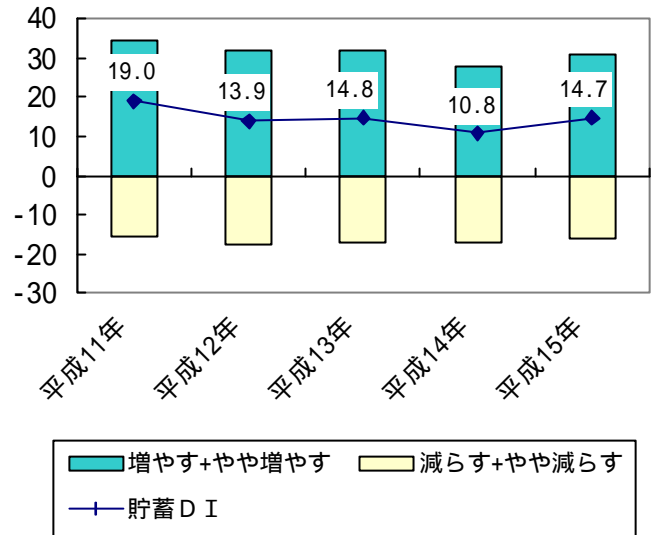
では次にくるのが、「病気や不時の災害の備え」（42.9%）、40代は「老後の備え」（44.6%）であった。50代、60歳以上は「老後の備え」の割合が高く（62.5%、70.7%）続いて「病気や不時の災害の備え」

となっている。

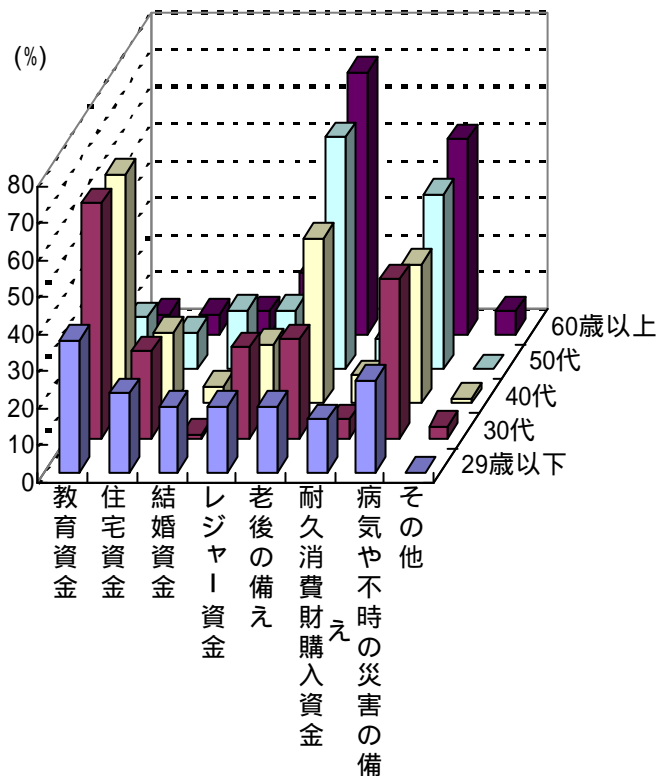
家計の収入が減少するなかであっても、今後の生活のためには少しでも貯蓄を増やしていこうという意識がうかがえる。

今後1年間の貯蓄DI

(DI)



貯蓄の目的  
(複数回答)



5. 購入予定商品（複数回答）

購入予定商品のうち最も多いのは「その他衣料品」(22.9%)、続いて「その他家電品」(19.5%)、昨年6位であった「乗用車」(17.5%)が3ランク上昇した。一方「婦人服」(17.2%)は昨年よりも3ランク下がった。全体的には、購入予定品目にばらつきが出ている。しかし、年代別には特徴が現れている商品もある。

29歳以下の年代と50代では「乗用車」が最も多く、次に「婦人服」と「その他衣料品」が多いことも共通している。30代、40代は共に「その他衣料品」と「その他家電品」が多くなっている。ただその次に多いのは30代が「婦人服」で、40代は「乗用車」である。60歳以上では「その他家電品」が一番で、「婦人服」と「その他衣料品」が続く。

今後の主な購入予定商品(上位10品目)

(%)

| 順位 | 2002年10月から1年間 |      | 2003年10月から1年間 |      |
|----|---------------|------|---------------|------|
| 1  | 婦人服           | 21.3 | その他衣料品        | 22.9 |
| 2  | その他衣料品        | 20.6 | その他家電品        | 19.5 |
| 3  | その他家電品        | 19.6 | 乗用車           | 17.5 |
| 4  | 家具・インテリア用品    | 14.9 | 婦人服           | 17.2 |
| 5  | パソコン・ワープロ     | 14.5 | 家具・インテリア用品    | 13.0 |
| 6  | 乗用車           | 13.4 | 背広            | 10.7 |
| 7  | 化粧品           | 12.9 | 化粧品           | 10.7 |
| 8  | 背広            | 11.5 | パソコン・ワープロ     | 10.7 |
| 9  | 靴・ハンドバック      | 11.0 | 冷暖房器具・エアコン    | 9.3  |
| 10 | 冷暖房器具・エアコン    | 10.2 | スポーツ・レジャー用品   | 9.0  |

購入予定商品(複数回答)

(%)

|          | 合計          | 年代別   |      |      |      |       | 既婚、独身別 |      |      |
|----------|-------------|-------|------|------|------|-------|--------|------|------|
|          |             | 29歳以下 | 30代  | 40代  | 50代  | 60歳以上 | 既婚     | 独身   |      |
| 品衣料      | 婦人服         | 17.2  | 25.0 | 20.4 | 14.0 | 19.0  | 16.5   | 15.5 | 30.4 |
|          | 背広          | 10.7  | 7.1  | 19.4 | 10.8 | 13.4  | 3.7    | 11.7 | 6.5  |
|          | その他衣料品      | 22.9  | 25.0 | 38.8 | 26.1 | 18.1  | 16.5   | 23.3 | 23.9 |
| 教養娯楽費    | スポーツ・レジャー用品 | 9.0   | 10.7 | 8.2  | 10.2 | 7.9   | 9.1    | 7.8  | 13.0 |
|          | パソコン・ワープロ   | 10.7  | 10.7 | 8.2  | 15.3 | 8.3   | 12.8   | 10.2 | 18.5 |
|          | カメラ・ビデオカメラ  | 7.7   | 3.6  | 7.1  | 10.2 | 6.9   | 7.9    | 7.4  | 8.7  |
|          | DVD         | 5.9   | 3.6  | 3.1  | 8.3  | 6.5   | 6.1    | 4.4  | 14.1 |
|          | オーディオ機器     | 2.7   | 0.0  | 5.1  | 3.8  | 1.9   | 1.8    | 2.3  | 7.6  |
| 家具・インテリア |             | 13.0  | 7.1  | 14.3 | 15.9 | 13.4  | 9.1    | 13.4 | 13.0 |
| 品家庭電器製   | 冷暖房器具・エアコン  | 9.3   | 7.1  | 1.0  | 11.5 | 11.6  | 9.8    | 10.0 | 6.5  |
|          | テレビ・ラジオ     | 8.2   | 10.7 | 6.1  | 7.6  | 9.7   | 8.5    | 8.5  | 6.5  |
|          | 携帯電話        | 8.4   | 3.6  | 7.1  | 7.0  | 8.8   | 11.0   | 8.1  | 12.0 |
|          | 冷蔵庫         | 4.8   | 3.6  | 1.0  | 5.1  | 4.6   | 7.3    | 4.9  | 1.1  |
|          | その他家電品      | 19.5  | 21.4 | 21.4 | 22.3 | 16.2  | 22.6   | 21.8 | 12.0 |
| 品見回      | 靴・ハンドバック    | 9.0   | 7.1  | 10.2 | 7.6  | 10.2  | 9.1    | 7.6  | 18.5 |
|          | 化粧品         | 10.7  | 10.7 | 10.2 | 9.6  | 12.5  | 9.8    | 8.5  | 22.8 |
|          | 宝石・貴金属      | 2.0   | 0.0  | 4.1  | 1.3  | 3.2   | 0.6    | 2.1  | 3.3  |
| 乗用車      |             | 17.5  | 35.7 | 9.2  | 19.7 | 20.8  | 14.6   | 18.0 | 16.3 |
| その他      |             | 5.4   | 7.1  | 5.1  | 5.7  | 5.1   | 5.5    | 5.1  | 4.3  |

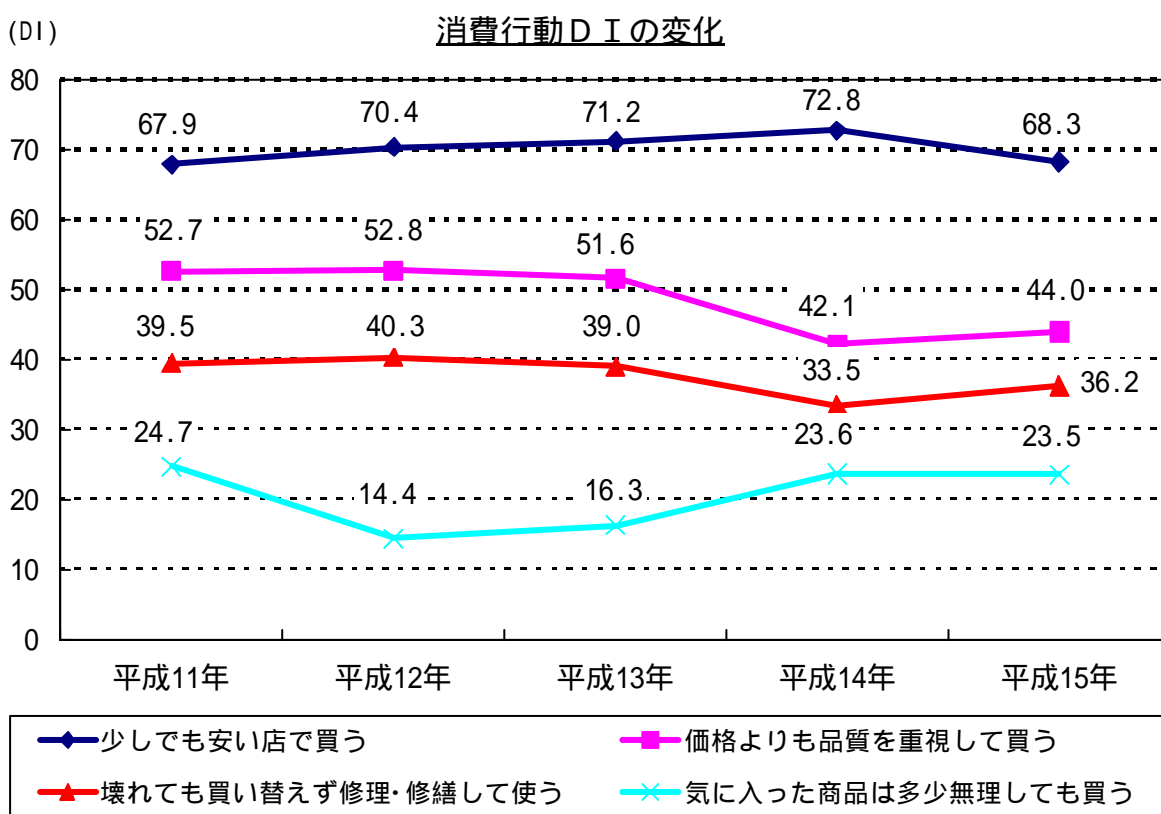
## 6. 消費行動

買い物などの消費行動D Iの変化について見てみると、「同じ商品なら、少しでも安い店で買う」(68.3)が前年と同様に高い比率を占めているが、その割合は4.5ポイント低下している。昨年は29歳以下、30代、40代の各年代で「少しでも安い店で買う」との答えが8割を超えたが、今回は40代だけであった。一方60代以上では「いいえ」の答えが1割以上を占めた。一部ではあるが、安さ以外の消費欲求が出てきているように思える。

「価格よりも品質を重視して買う」と答えた割合は昨年よりもわずかに上昇したが、全体的には低価格指向が続いている。「品質を重視する」との答えが6割を超えたのは、29歳以下と60歳以上の年代であった。最もD Iが低い年代は、30代で29.6ポイント、次には40代の31.2ポイントであった。子供の教育費などの必要経費がかさむ年代では、価格も重視せざるを得ない実情がうかがえる。

「壊れてもすぐに買い替えず、修理する」(36.2)のD Iも2.7ポイント上昇した。D Iが最も高い年代は、60歳以上で53.1ポイントであった。一方29歳以下は14.3ポイントと「いいえ」と答えた割合が3割以上あり、その差は38.8ポイントあった。次にD Iが低かったのは40代で21.0ポイントであった。

「気に入った商品なら、多少無理しても買う」(23.5)は昨年とほぼ同じであった。D Iが最も高かったのは、29歳以下(50.0)で昨年の30.5ポイントより19.5ポイント高くなっている。反対にD Iが低いのは40代と60歳以上で、それぞれ17.8、17.0ポイントであった。年代別のD Iの傾向はほとんど昨年と同じ状況であったが、29歳以下のD Iの上昇が特に目立った。





## 7. 費目別サービス・レジャー支出

<現在>

1年前(2002年)と比べたサービス・レジャーに関する支出DIが増えたのは4項目で、「教養娯楽費」3.8ポイント、「外食費」3.2ポイント、「補助教育費」1.3ポイント、「習い事の費用」0.1ポイントであった。残りの5項目は支出DIが低下した。最も低下した項目は「二泊以上の旅行」で

12.2ポイント。次は「一泊旅行」の7.7ポイントで、その落ち込みの幅はかなり大きい。

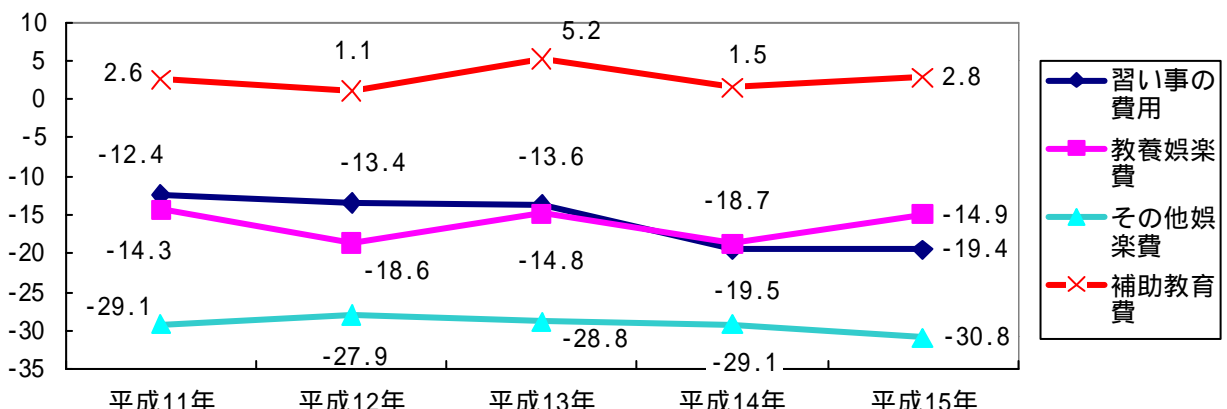
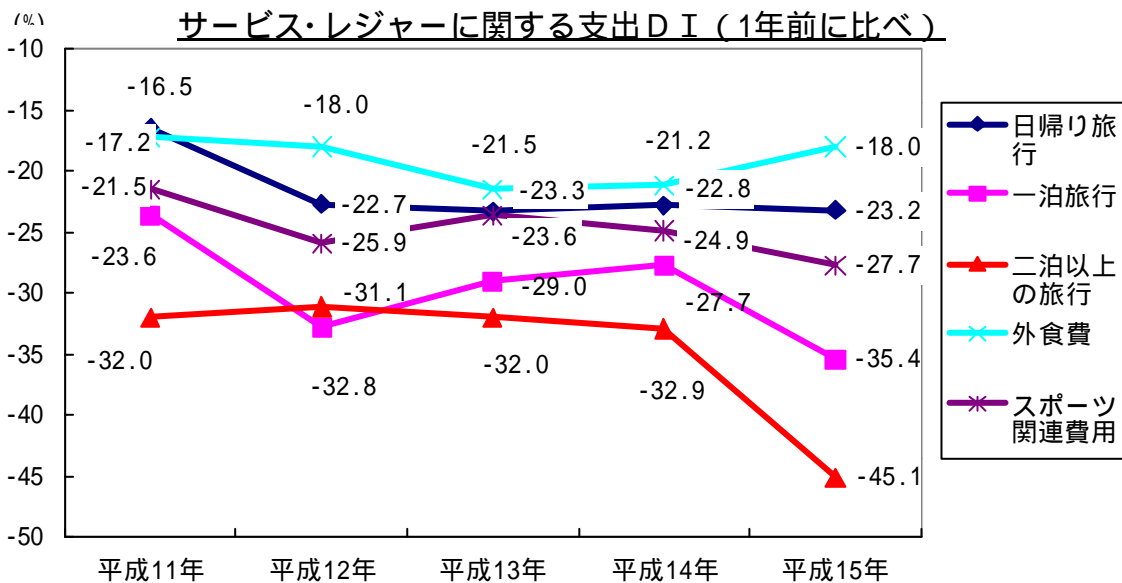
「二泊以上の旅行」を減らしたのは、29歳以下が19.0ポイント、60歳以上が15.1ポイント、30代が14.9ポイントであった。

支出DIが昨年よりも上昇した「教養娯楽費」を増やしたのは、50代が7.8ポイント、30代の7.4ポイントであった。

今後1年間に、サービス・レジャー等の支出を考えているもの(複数回答)としては、「一泊旅行」28.7%、「日帰り旅行」27.2%、「二泊以上の旅行」22.4%であった。

「一泊旅行」を考えているのは、29歳以下と50代、60歳以上でそれぞれの割合は3割を超えている。「日帰り旅行」では、50代と60歳以上が3割を超えた。「二泊以上の旅行」を増やそうと考えているのは、29歳以下の年代で32.1%あった。

30代が今後支出を増やそうと考えているのは、「一泊旅行」(29.6%)と「補助教育費」(28.6%)であった。40代は「補助教育費」(35.7%)と「一泊旅行」(24.8%)が多かった。





## 8. 買い物・レジャー支出の減少理由（複数回答）

今後の買い物やレジャー支出について「増やす」は12.2%、「減らす」は41.5%、「考えていない」42.8%となり、昨年よりは「増やす」が0.7%の増加、「減らす」が2.5%の減少となり、DIは3.2ポイント上昇した。

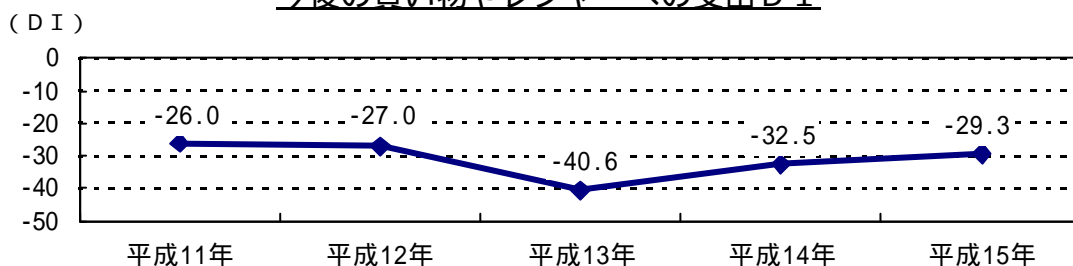
「減らす」理由としては「世帯の収入が減った」(44.3%)が最も多いが、昨年よりは1.9ポイント減少した。また「老後の生活不安」も4.6ポイント減少している。

一方、「特別な支出予定あり」と「受取利息の減少」の割合は昨年より増加している。

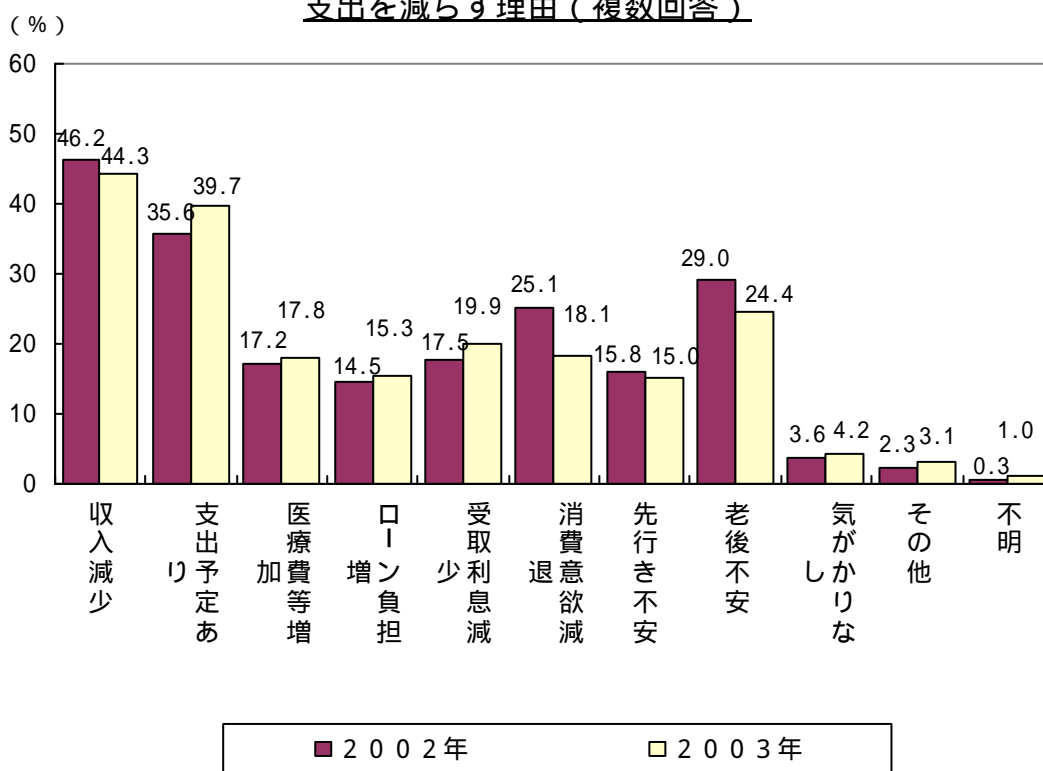
「支出を減らす理由」について、項目別に各年代の特徴を見ると、「世帯の収入が減った」は29歳以下だけが昨年より32.4%減少した。一方「医療費・税の負担増」と「老後の生活不安」では29歳以下だけが18.3ポイントと6.2ポイント増加した。「特別な支出予定あり」の割合が多いのは、昨年同様40代であったが、50代と60歳以上でも数ポイント増えていた。「給与減額・失業など先行きが不安」は昨年同様29歳以下(23.5%)が多く、「消費意欲がわからない」は全体的に減少していた。

(奥 桂子)

### 今後の買い物やレジャーへの支出DI



### 支出を減らす理由（複数回答）



【調査要領】

(1) 調査場所.....次に掲げる奈良県下の南都銀行店舗 23か店

本店営業部、西大寺、平城、学園前、富雄、生駒、  
東生駒、郡山、天理、桜井、榛原、大淀、高田、  
香芝、新庄、御所、橿原、神宮前、王寺、西大和、  
法隆寺、田原本、五条

(2) 調査日.....2003年10月7日

(3) 調査方法.....上記店頭において無記名で記入

(4) 調査対象者...700人

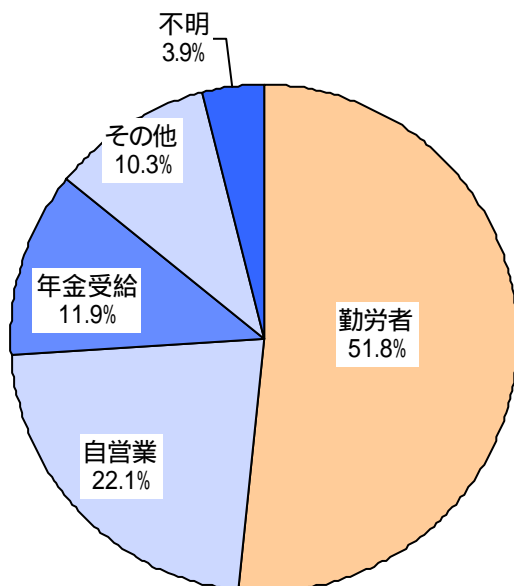
うち有効回答者数 691人  
有効回答率 98.7%

(5) 調査対象者の属性

(上段：人、下段：%)

|      | 29歳以下     | 30代        | 40代         | 50代         | 60歳以上       | 不明         | 全体           |
|------|-----------|------------|-------------|-------------|-------------|------------|--------------|
| 独身男性 | 4<br>12.9 | 7<br>22.6  | 2<br>6.5    | 6<br>19.4   | 9<br>29.0   | 3<br>9.6   | 31<br>100.0  |
| 独身女性 | 4<br>6.6  | 3<br>4.9   | 7<br>11.5   | 26<br>42.6  | 17<br>27.8  | 4<br>6.6   | 61<br>100.0  |
| 既婚男性 | 4<br>3.3  | 17<br>14.0 | 24<br>19.8  | 32<br>26.4  | 42<br>34.7  | 2<br>1.8   | 121<br>100.0 |
| 既婚女性 | 11<br>2.8 | 68<br>17.0 | 115<br>28.8 | 134<br>33.5 | 71<br>17.7  | 1<br>0.2   | 400<br>100.0 |
| 不明   | 5<br>6.4  | 3<br>3.8   | 9<br>11.5   | 18<br>23.1  | 25<br>32.1  | 18<br>23.1 | 78<br>100.0  |
| 合計   | 28<br>4.1 | 98<br>14.2 | 157<br>22.7 | 216<br>31.2 | 164<br>23.7 | 28<br>4.1  | 691<br>100.0 |

世帯主の職業



世帯主の配偶者の状況

